

マイクロ波論文（大学発）特集の発行にあたって



マイクロ波論文（大学発）特集編集委員会

委員長 磯田 陽次

今年の3月11日午後突然東日本を襲った未曾有の大震災、大津波、危険度レベル7まで達した原発事故と放射能汚染という大災害が発生した。たまたまそのとき、後期入試の監督で仙台に滞在していた私は、震度7の揺れと直後の停電、通信の途絶えを経験した。今回の震災でも早い段階で携帯電話が使えなくなり、大学との連絡は公衆電話に頼るしかなかった。携帯電話でワンセグ放送を受信するとみるみる電池が消耗し、長時間使用に耐えられたのは昔ながらの携帯ラジオのみであった。このような経験から、マイクロ波技術に携わる者として、緊急時でも使用できる、途絶えない通信システムの実現を目指していかなければならないと強く感じている。

本会和文論文誌では、2004年よりマイクロ波論文(大学発)特集が毎年C論文誌の12月号で企画され、今年で8回目となる。例年どおり論文投稿締め切りを3月末として募集したが、今年は前述の大震災発生のため、投稿締め切りを20日間延長する措置をとった。しかし、年度末に向けて研究の仕上げの追い込みを計画してい

た大学の教員や学生が大きな影響を受けたことは想像に難くない。今回の本特集への投稿論文数は、論文4編、ショートノート4編と低調であった。厳正な査読の結果、論文2編、ショートノート3編の採録となった。

最後に、本特集を発行するにあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集員各位、並びに事務局の各位に深く感謝申し上げます。この特集企画が今後も継続的に実施され、マイクロ波研究会とともに、多くの学生の皆さんが活躍できる舞台の一つとなることを期待している。

いわた ようじ 磯田 陽次 (正員：シニア会員) 昭51阪大・工・通信卒。昭54同大学院修士課程了。同年三菱電機(株)入社。以来電力分配器やフィルタなどのマイクロ波給電回路、マイクロ波増幅器などの研究開発に従事。平14～16東北大学電気通信研究所IT-21センター教授。平20より秋田県立大学教授、現在に至る。博士(工学)。IEEEシニア会員。

マイクロ波論文（大学発）特集編集委員会

- |     |  |
|-----|--|
| 委員長 | 磯田 陽次  |
| 幹事  | 河合 正・北沢 祥一   |
| 委員  | 大島 毅・鴨田 浩和・柴田 幸司・清水 隆志<br>関 智弘・田中 高行・陳 春平・松永 真由美<br>馬庭 透 |